

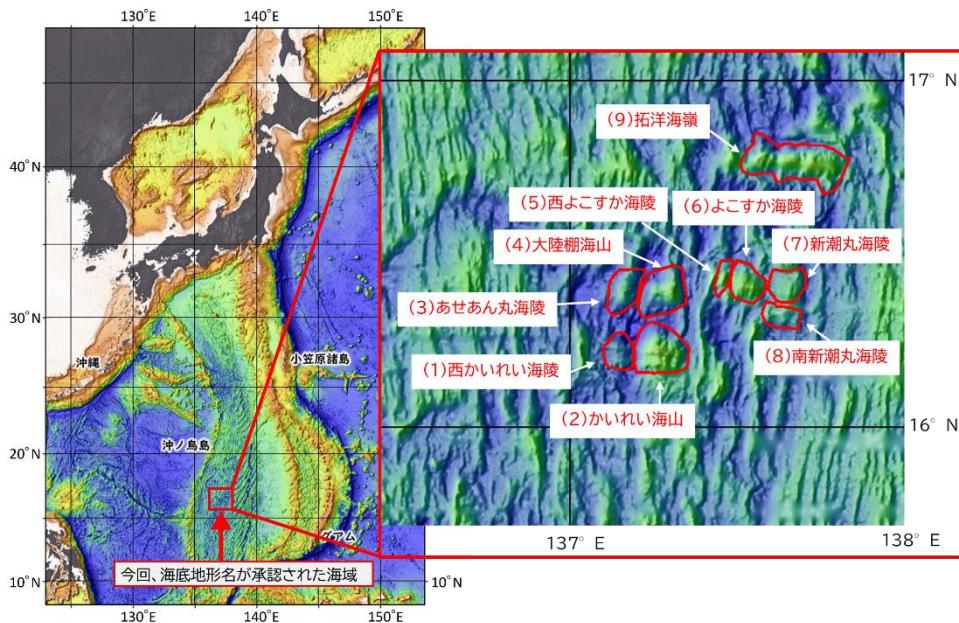
令和 8 年 1 月 28 日
海上保安庁

我が国の大陸棚延長に貢献した海洋調査船が海底地形名に！ ～日本提案の海底地形名が国際会議で承認～

世界の海底地形名を標準化するための国際会議において、我が国が提案した海底地形名 9 件が承認され、大陸棚調査※¹などの海洋調査に従事した海上保安庁の測量船拓洋を含む我が国の海洋調査船の船名が海底地形名として承認されました。

国際水路機関（IHO）とユネスコ政府間海洋学委員会（IOC）が共同で設置する「海底地形名小委員会（SCUFN）※²」の会議が、令和 7 年 11 月 10 日（月）～14 日（金）の間、インドネシア（バリ島）において開催され、令和 8 年 1 月 23 日（金）に審議の結果が公表されました。

今次会議において、我が国が提案した以下の海底地形名 9 件が承認されました。



承認された名称は、沖ノ鳥島南南東約 400km のパレスベラ海盆にある海底地形（[図 1](#)、[図 2](#)）に付けられたもので、同海域の海洋調査を実施した我が国の海洋調査船の船名が由来となっています。（別紙参照）

これらの海洋調査船による海洋調査により得られた成果に基づき国連の大陸棚限界委員会での審査が行われ、これまでに約 30 万平方キロメートルの海域が我が国の大陸棚として設定されています（[図 3](#)）。

今次会議で承認された海底地形名は、IHO/IOC 海底地形名集^{※3}に掲載されることで世界中に周知され、今後、地図や海図、論文などに使われることになり、我が国由来の地名が国際的に広く普及することになります。

※ 1 : 大陸棚調査

国連海洋法条約では、沿岸国の 200 海里までの海底とその下をその国の「大陸棚」と定めています。さらに国連の大陸棚限界委員会の審査で、海底の地形が沿岸国の陸部と連續性があると認められた場合には、200 海里を超えた延長大陸棚を設定することができます。

国連海洋法条約によって、沿岸国には自國の大陸棚の天然資源を開発するための主権的権利が認められており、世界の多くの国が大陸棚の延長を目指しています。

我が国も大陸棚の延長を目指し、その申請に必要な所要のデータを収集することを主目的とした海洋調査「大陸棚調査」を実施しています。

【参考】<https://www8.cao.go.jp/ocean/policies/tairikudana/tairikudana.html>

※ 2 : 海底地形名小委員会 (SCUFN)

海底地形名小委員会 (SCUFN) は、地図・海図や論文等に使われる世界の海底地形名を標準化するための学術的な委員会です。同委員会は、世界各国の 12 名の地質学・地理学等の専門家で構成され、令和 5 年末からは、海上保安庁海洋情報部の小原泰彦海洋研究室長が議長を務めています。

海底地形には、近傍の陸上地名、発見に関係した船名や機関名、あるいは海洋学に貢献した故人に因んだ名称等を付けることができます。

我が国では、地質学・地理学・史学等の有識者で構成される「海底地形の名称に関する検討会」における検討を経て提案を行っています。

※ 3 : IHO/IOC 海底地形名集

IHO/IOC 海底地形名集は、SCUFN で承認された海底地形情報が登録されています。[\(https://www.gebco.net/data_and_products/undersea_feature_names/\)](https://www.gebco.net/data_and_products/undersea_feature_names/)

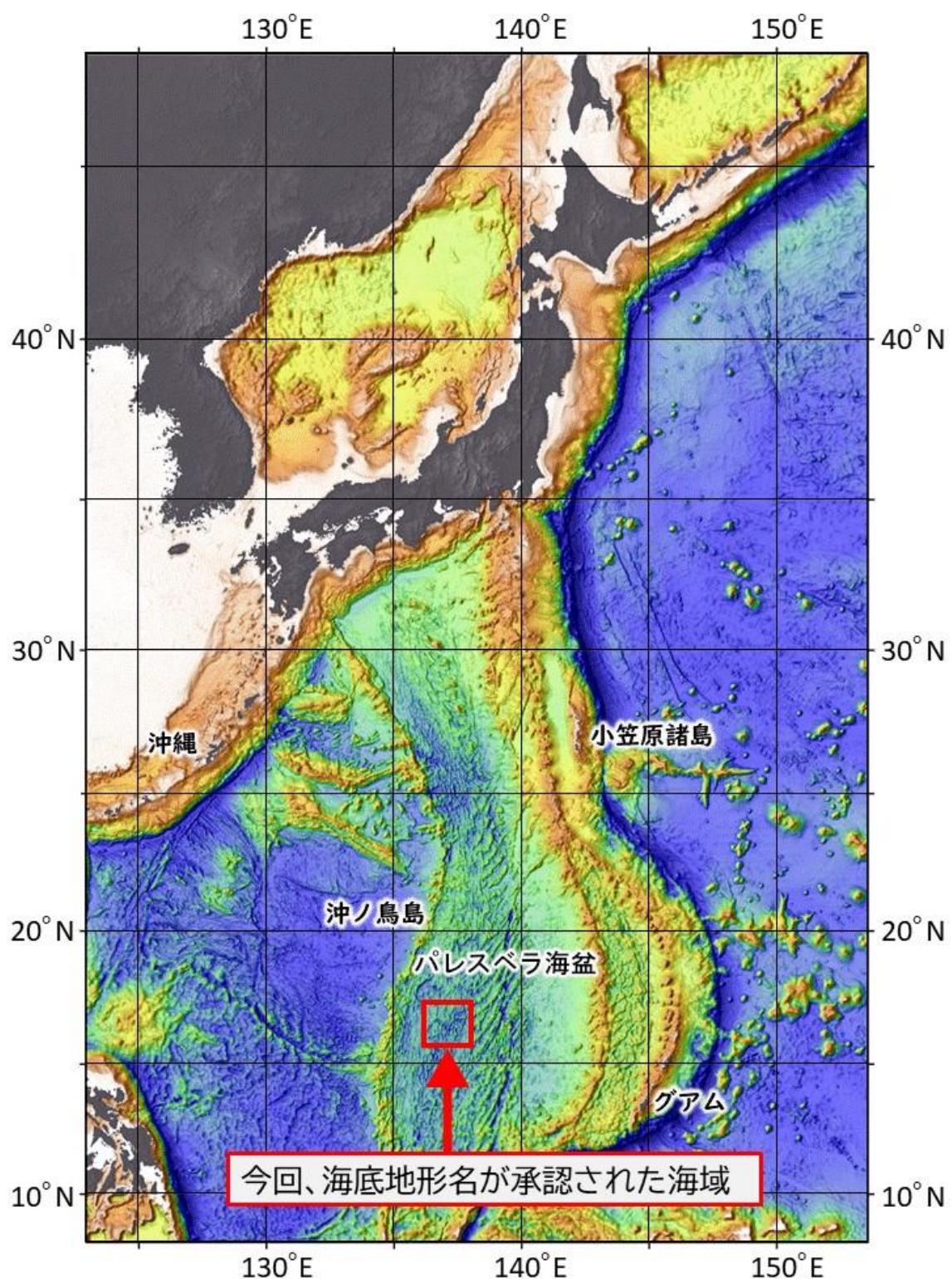


図 1 : SCUFN 会議にて海底地形名が承認された海域（位置図）

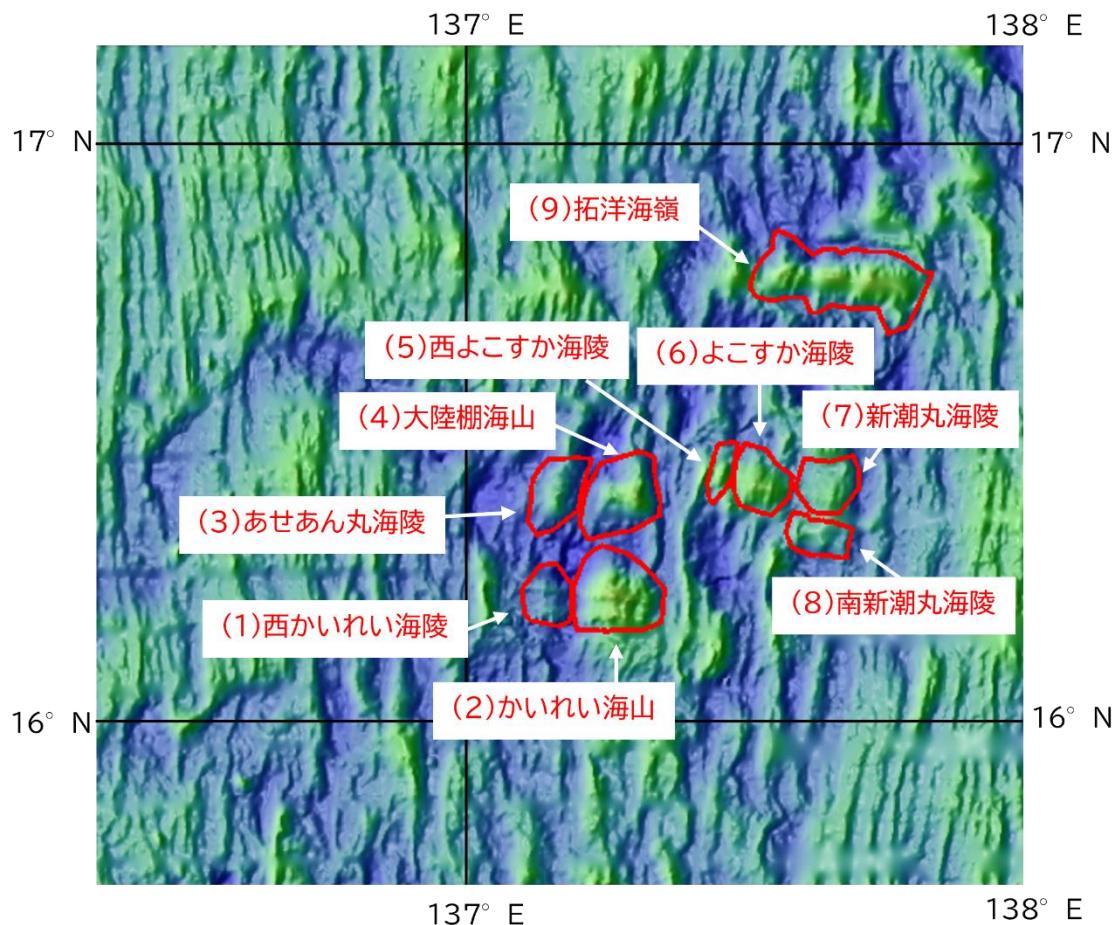


図2：SCUFN会議にて承認された海底地形名9件（詳細図）

海底には大小さまざまな山、山脈、丘、盆地等があり、海底は陸上と同様に起伏に富んだ地形からなっています。今次会議で決まった海底地形の属名は以下のとおりに定義されています。

- 海山…比高1,000m以上の一、ほぼ均等な形状を持つ明瞭な海底の山のこと。
- 海陵…比高1,000m未満で、不規則な形状をした明瞭な海底の丘のこと。
- 海嶺…急な斜面を持つ細長い海底の山脈のこと。形状や大きさはさまざま。

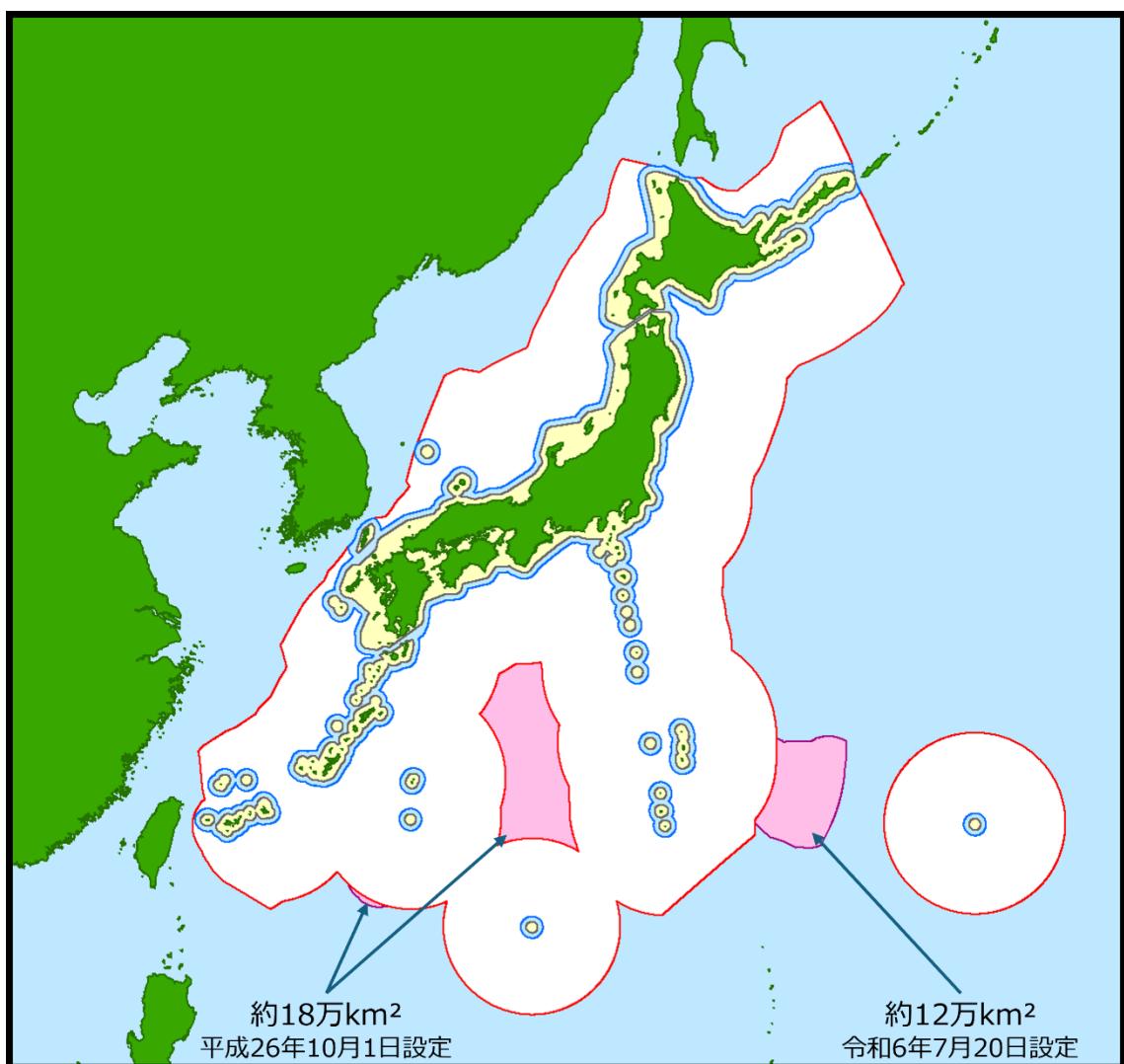


図3：日本の延長大陸棚（桃色の海域）

1. パレスベラ海盆の特徴

沖ノ鳥島南東方の広大な海底はパレスベラ海盆と呼ばれています。かつてパレスベラ海盆では、プレートの動きによって海底拡大が発生していました。海底拡大に伴って海底面に大規模な正断層が発生して（図4 左）、海底面にマントル物質等の地下深部物質が露出しドーム状の高まりが形成されることがあります（図4 右）。

このドーム状の高まりは、「海洋コアコンプレックス」または「メガムリオン」と呼ばれています。今回命名された海底地形はすべて海洋コアコンプレックスであると考えられます。

海洋コアコンプレックスは表面に畝状の構造を持つことが特徴で、地殻の下部やその下のマントルを直接観測することができる貴重な海底地形であるため、海洋科学において非常に重要な研究対象となっています。パレスベラ海盆では多くの海洋コアコンプレックスが海底に見つかっており、海洋コアコンプレックスが集合するエリアと考えられます。

我が国が命名した他の海洋コンプレックスとしては「ゴジラメガムリオン地形区¹⁾」があります。

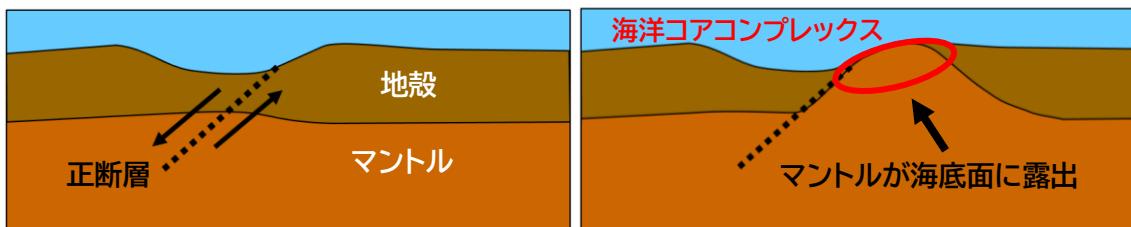


図4：海洋コアコンプレックスの成因（Tucholke et al., 1998 の図を一部改変）

2. 海底地形名の由来となった調査船とその役割

調査船名	所属	役割
かいれい	国立研究開発法人 海洋研究開発機構	2003年の「かいれい」のマルチビーム音響測深機 ²⁾ による地形調査で、当該海域の海底地形データが完全に取得されました。また、マントル物質であるかんらん岩と下部地殻物質である斑れい岩を採取し、海洋コアコンプレックスの存在が物質的に確定されることになりました。なお、「かいれい」は無人探査機「かいこう」の支援母船やマルチチャンネル反射法地震探査実施船として24年間に渡り我が国の深海調査に貢献して来ましたが、2022年2月に退役となっています。
よこすか	国立研究開発法人 海洋研究開発機構	2000年の「よこすか」のマルチビーム音響測深機 ²⁾ による地形調査により、当該海域の複数の海底の高まりの表面に畝状

		の構造が存在することが明らかになり、この海域に海洋コアコンプレックスが複数存在することが確認されました。なお「よこすか」は、有人潜水調査船「しんかい 6500」や深海巡航探査機「うらしま 8000」等の支援母船として深海・海溝域の総合的な調査を行っています。
あせあん 丸	洞海マリンシステムズ 株式会社	2004年11月から2005年1月にかけて、「あせあん丸」、「新潮丸」と「大陸棚」の3隻を用いて地殻構造調査(地震探査)を実施し、当該海域の地殻構造を明らかにしました。「新潮丸」と「あせあん丸」が海底地震計の設置・回収を担当し、「大陸棚」はエアガンによる地震探査の音源の発震を行いました。
新潮丸	深田サルベージ建設 株式会社	
大陸棚	日本大陸棚調査 株式会社	
拓洋	海上保安庁 海洋情報部	本邦初となるマルチビーム音響測深機 ²⁾ 搭載船として1983年に就航し大陸棚調査の主力船として活躍しています(第25回人事院総裁賞(職域部門)受賞)。1990年代の「拓洋」のマルチビーム音響測深機による地形調査により、当該海域において複数の特殊地形が初めて認識され、その後の詳細な調査により複数の海洋コアコンプレックスであると確認されることとなりました。ゴジラメガムリオン地形区もこの地形調査で発見されました。なお、「拓洋」は就航直後の1984年に、世界最深部であるマリアナ海溝チャレンジャー海淵のマルチビーム音響測深機による精査を行い、その水深が10920mであることを確認しました。IHO/IOC海底地形名集には「拓洋」が確認したこの値がチャレンジャー海淵の水深として採用されています。

1) ゴジラメガムリオン地形区

https://www.kaiho.mlit.go.jp/info/kouhou/r4/k230214_1/k230214_1.pdf

2) マルチビーム音響測深機

マルチビーム音響測深機は、扇状に多数の音波を海底に向けて発射し、その反射波を受信することにより、一度に広範囲かつ高密度の海底地形データを取得することができる音響機器です。

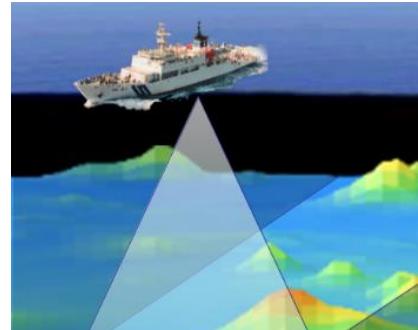


図5：マルチビーム音響測深機